

### 3 なごや子ども応援委員会・学校と専門機関等との連携

- スクールカウンセラー等の専門職による早期のアセスメントを実施し、学校と協働してアセスメントを基にした支援計画を作成し、適切な支援につなげます
- 支援の記録を活用してなごや子ども応援委員会と学校との情報共有を強化するとともに、専門機関等と連携し、継続的な支援を促します
- なごや子ども応援委員会が相談窓口としての機能を強化するとともに、コーディネーターとして学校と協働して専門機関等へつなぎます

学校は、登校渋りや遅刻、教室にいられないなどの不安定な様子が見られる児童生徒やその家庭について、できるだけ早い段階でなごや子ども応援委員会の専門職にアセスメントを依頼します。専門職がアセスメントを行うことで、より早い段階での適切な支援につなげます。

専門職のアセスメントと教員のもつ情報を基に対処を協議するなど、なごや子ども応援委員会と学校が協働して、早期に支援の方法を検討し、支援計画を作成します。

学校は支援の記録を作成・活用して、なごや子ども応援委員会と学校との情報共有を強化するとともに、アセスメントの結果や支援計画、支援の経過等を専門機関等との連携や進学先・転学先への引継ぎにも活用し、切れ目のない支援につなげます。

なごや子ども応援委員会は、支援の必要な児童生徒及びその保護者の相談窓口としての機能を強化するとともに、コーディネーターとして、児童相談所、区役所（民生委員・主任児童委員）、医療機関、子ども・若者総合相談センター等の専門機関や子ども青少年局による事業等に適切につなぎ、学校と協働して児童生徒一人一人の状況や保護者の状況に応じた適切な支援を行います。